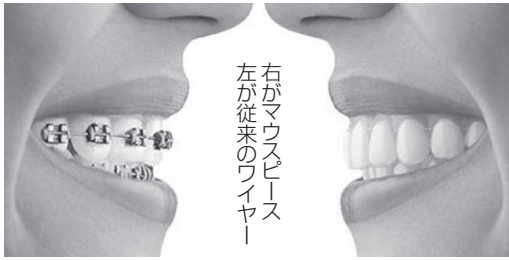


患者が自分で取り外し

多くの方がワイヤーを使った矯正治療を受けて、きれいな口元を手に入れたが、患者にとり矯正が辛い経験であることもまた事実。笑ったとき、話したときに見えるワイヤーは、限られた期間とはいえ新たなコンプレックスの種にもなる。歯に長期



右がマウスピース
左が従来のワイヤー

間、力を加えるため違和感が消えない。ワイヤーと歯の間に食べ物のカスが溜まりやすい。それが虫歯や歯周病の原因になる。

歯科医療全体が新技術の活用で進歩したように、矯正治療もまた急速に進歩している。いまみや歯科で本格的な治療が行われているのがインビザラインのマウスピースを活用した矯正治

従来、歯並びの矯正に使われてきた金属製ワイヤーには、美観への影響や口の中の違和感などの問題があった。「インビザライン」は樹脂製のマウスピースを活用する新しい矯正システム。従来の手法にはないさまざまな利点を備えている。医療法人 Inamiya Medical Alliance (IMA、今宮克明理事長)、いまみや歯科医院では、プラチナ認定されたマウスピース専門の矯正医である瀬川憂樹歯科医師が矯正治療を行っている。

療だ（インビザラインとはインビザブル〈見えない〉+アライン〈整列〉）に由来する名称）。透明な樹脂製で、歯の外側を薄くコーティングするような形状。装着時の違和感がワイヤーよりも大幅に軽



透明で目立たないマウスピース

米国の主流に

インビザラインは米国アラインテクノロジー社が開発し、米国内では矯正の認定医・専門医の約80%がこの手法を使用するなど、すでに主流となっている。これまで米国発の手法

外観以上に大きな特徴は、固定されているワイヤーと異なり、マウスピースは患者が自分で装着したり、取り外したりできるということ。このため食事や歯磨きの前には取り外し、終わったら装着できる。口腔内に固い金属を入れないので装着中のスポーツが可能。若い患者からは「矯正期間中も口元を気にせず写真に入れたのがうれしい」といった声も寄せられている。

がほぼ10年遅れで導入されてきた日本でも、今後インビザラインが主流になる可能性が大きい。患者にとっては利点が多いこの手法だが、歯科医師なら誰もが使えるわけではなく、ア社の認定する資格を取得する必要がある。この資格にはさまざまな段階があり、最も基本的なレベルが「ブロンズ」。経験を重ね、技術を高めるごとに「シルバー」「ゴールド」「プラチナ」と上がっていく。瀬川氏（北海道大学

道内唯一の「プラチナ」矯正医
マウスピースで常識覆す矯正

歯学部卒）は道内唯一の「プラチナ」資格保持者であり、ブロンズ取得から2年目のプラチナ取得は過去最速だ。瀬川氏は現在、旭川ではいまみや